

担い手へ「出向く活動」で 元気な日本農業を築く

現地ルポ／全農県本部・JAの担い手支援の取組み



地域が育てた若い力が地域を育てる明日の力に

富山県・JAみな穂(入善町)の元気な担い手たち



現地ルポ発刊にあたって

わが国の農業は、輸入農畜産物の増大による価格の低迷、生産者の高齢化による基幹的農業従事者の減少と耕作放棄地の増加などにより、生産基盤の脆弱化が進行し危機的な状況にあります。

J Aグループにとって、自給的農業者や高齢者、定年帰農者も含めた地域農業振興による生産基盤強化と今後地域農業を主体的に支えていく担い手に対する対応強化は極めて重要な任務といえます。

本会はこうした状況をふまえ、J Aが地域の営農生産の現場でおこなう担い手対応を支援するため、18年4月、J A全農「農業担い手支援基本要領」を定めて担い手支援強化の取り組みに着手しました。

それ以来2か年、地域の農業生産現場は多種多様な課題を抱えており、担い手支援体制作りから担い手のニーズにもとづく対策の展開まで手間と時間を必要とする取り組みが続けられています。

その取り組みの中から本会の担い手対応専任担当者がJ A担当者と一緒になって地域の担い手に出向き、担い手が抱えている課題が何なのかを見つけ出し、その課題の解決に対処した事例を中心に、この度、「現地ルポ／全農県本部・J Aの担い手支援の取り組み」をまとめました。作成にあたっては、どの地域で、どんな作物や生産場面で、誰が、誰と、誰に対し、どのような行動をしたのか、活動の場面(シーン)が目に見え、目につくようなものになるよう心掛けたつもりです。

担い手生産者の皆さんから、早く、『対策の効果が実感できるようになった』と評価してもらえるようにならないければなりません、そのことは今回のルポで紹介したような具体的な場面(シーン)が全国各地に幾千と誕生していることなのだと考えます。

全国各地での担い手への対応強化の取り組みをすすめる上で参考になれば幸いです。

最後になりますが、冊子作成にあたり、忙しい中現場で取材等に対応していただくなど、多くの皆様に多大なご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

平成20年3月

J A全農営農総合対策部

部長 小池一平

目 次

全農担い手対応ルポ

■秋田県本部

園芸あきた担い手育成運動を展開

－販売実績に応じた担い手への助成事業－…………… 1

■茨城県本部

J Aと県本部で「出向く活動」の役割分担を明確化…………… 5

■群馬県本部

営農経済渉外員へのスキルアップ研修を重視…………… 9

■千葉県本部

県本部加工センターを活用した加工業務用野菜の契約栽培の提案…………… 13

■新潟県本部

J A別に担い手対応体制づくりを提案

－徹底した課題分析と進捗管理でJ A支援－…………… 17

■富山県本部

フレコン出荷導入など担い手の要望にいち早く対応して信頼関係深める…………… 21

■三重県本部

施肥作業の大幅省力化提案で信頼関係を築く…………… 25

■兵庫県本部

販売事業を起点とした担い手への生産提案に取り組む…………… 28

■島根県本部

モデルJ Aで出向く体制・運用を築き、それを県内に広げる…………… 32

■岡山県本部

「担い手対応支援システム」の活用を促進…………… 36

